

第 33 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2017. 12. 19 空田さやか

『カルテオロール塩酸塩 L A 点眼液 1 %』

わかもと製薬株式会社 小川さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：原田先生、眼科職員さん、熊山ともみ、相原美穂、細川亜希子、空田さやか

一般に緑内障は年齢とともに徐々に進行し、しかも失われた視野は元に戻らないため、生涯にわたり継続的に眼圧をコントロールする必要がある。このため、薬剤の選択では、眼圧降下効果および安全性が重要である。また、点眼の使用感が患者のアドヒアランス不良につながる可能性があるが、アドヒアランス不良は、緑内障が進行する重要な要因のひとつであることから、忍容性の良い持続性点眼液が求められてきた。今回は、点眼液の添加剤として汎用されているホウ酸/マンニトールに着目し、粘性を上げることなく薬剤の眼表目での滞留性を向上させ、眼内移行量を増加させる製剤が開発されたので紹介する。

〈効能・効果〉

緑内障、高眼圧症

〈用法・用量〉

通常 1 % 製剤を 1 回 1 滴、1 日 1 回点眼する

なお、十分な効果が得られない場合は、2 % 製剤を用いて 1 回 1 滴、1 日 1 回点眼する

〈副作用〉

喘息発作、失神、房室ブロック、洞不全症候群、洞停止などの徐脈性不整脈、うっ血性心不全、冠攣縮性狭心症

〈禁忌〉

- ・コントロール不十分な心不全、洞性徐脈、房室ブロック、心原性ショックのある患者
- ・気管支喘息、気管支痙攣またはそれらの既往歴のある患者、重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者
- ・本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

〈特徴〉

- ・ ホウ酸/マンニトールを使用することによる先発品「ミケランL A点眼液」より眼内移行を向上（先発は品アルギン酸）。ホウ酸/マンニトールがカルテオロールと結合し角膜に留まりやすくなる
- ・ 添加物であるベンザルコニウム塩化物濃度は0.001%で先発品より少ないことにより細胞障害性が低い
- ・ 先発品よりPHが高い（6.8~7.4）ので、角膜透過性が上昇する
- ・ 先発品より粘性が低い（10倍の差がある）ので使用感がよい
- ・ 薬価が先発品（379円/本）よりも安い→257.9円/本
- ・ NP容器使用（PF容器に加え、特殊な操作不要、硬くない、無菌フィルター使用）

〈ベンザルコニウムのリスク〉

角膜、細胞冗費障害、眼瞼炎、CME

〈考察〉

カルテオロール塩酸塩L A点眼液の使用に際して最も重要なことは、気管支喘息の既往の有無である。初回お渡しの際は必ず問診を行い、副作用を未然に防ぐことが私たち薬剤師の役割であると考えます。また、容姿を気にする方に対しては、同じ1日1回製剤のプロスタグランジン製剤よりも気兼ねなく使用することができるだろう。

また、50滴ほど入っているので、1ヶ月を過ぎた点眼容器はできるかぎり使用しないように伝えていきたい。